



J R 連 合 NEWS

JRに集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を！！

2021 年度

No. 77

2022年2月10日

日本鉄道労働組合連合会

貨物鉄産労第35回中央委員会

先頭に立って2022春闘を牽引する！！

貨物鉄産労は2月5日、福岡市内で「第35回中央委員会」を開催した。メインスローガンに「ピンチをチャンスに捉え、労使が一体となって、この難局を乗り越えよう！」を掲げ、2022春季生活闘争をはじめ当面する活動方針を決定した。



冒頭、主催者を代表し挨拶に立った大杉正美中央執行委員長（JR連合副会長）は、「コロナ禍により会社の経営は厳しい状況にあるが、中期労働政策ビジョンに掲げる必達目標賃金に未達の現状を踏まえ、1,000円の純ベア要求を行い、『働きの価値に見合った水準』へと賃金を引き上げていく」と2022春闘への決意を述べた。また、

「東海地区本部で貨物鉄産労初となる女性組合員2名が加入した。会社が『JR貨物グループ長期ビジョン2030』で掲げる完全民営化の実現にむけ、革マル派組織からの脱却を図るべく、組織拡大の取り組みを強化していく」と力強く訴え、最後に、交運共済からこくみん共済coopへの契約移転に伴う取り組みへの協力を呼び掛けた。

また、JR連合からは、来賓として政所大祐事務局長と鎗光俊勝労働政策部長が出席し、「民主的で正しく将来を見据えたJR連合、貨物鉄産労の取り組みを通じてこそ、JR産業はこの難局を乗り越え、さらなる進化を遂げることができる。仲間に寄り添い、ともに未来を切り拓こう」と代表して鎗光部長が挨拶を行った。

議事では、執行部から「定期昇給の完全実施」「ベア1,000円」「期末手当年間4.5ヵ月（夏季2.1ヵ月、年末2.4ヵ月）」を掲げる2022春闘方針を含む当面の活動方針が提起された。これに対して5名から春闘方針の補強や組織拡大に向けた決意、コロナ感染に係わる勤務の取扱い、人事・賃金制度の評価方法



について発言があった。その後、辻村和裕書記長の総括答弁を経て、全ての議案が満場一致で採択され、最後は大杉委員長の団結がんばろうで締めくくった。